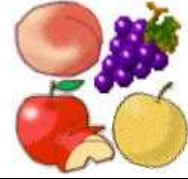


平成29年度 果樹情報 第7号

(平成29年6月20日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (6月前半：果樹研究所)

平均気温は、1半旬が17.1℃で平年より1.8℃低く、2半旬が18.8℃で平年より0.5℃低く、3半旬が17.4℃で平年より2.3℃低く経過しました。
この期間の降水量は29.5mmで平年の76%でした。

2 生育状況 (6月15日時点：果樹研究所)

(1) も も

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が43.1mmで平年比103%、側径が40.0mmで平年比105%と平年よりやや大きく、「ゆうぞら」は縦径が45.0mmで平年比105%、側径が39.0mmで平年比108%と平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較では、「あかつき」は平年並、「ゆうぞら」は平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後60日(6月16日)の「あかつき」の新梢長は平年比181%と長く、展葉数は平年比110%と多くなっています。葉色(SPAD値)は平年並です。満開後49日(6月7日)の「ゆうぞら」の新梢長は190%と長く、展葉数は117%と多くなっていますが、葉色(SPAD値)は平年並です。新梢停止は「あかつき」「ゆうぞら」とともに平年に比較して遅れています。

ウ 核障害

満開後60日における「あかつき」の核頂部亀裂は平年に比較してやや多く、縫合面割裂の発生率は少ない状況です。

エ 硬核開始日と収穫期予測

「あかつき」の硬核期開始日は6月7日頃で平年より3日早まりました。
6月16日現在のDVRモデルによる「あかつき」の収穫予測では、本年の収穫開始は7月31日頃、収穫盛りは8月3日頃で、平年より2日早い予測となっています。

表1 ももの収穫期予測(6月16日現在)

品 種	収穫開始日			収穫盛日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	7/31	8/2	2日早い	8/3	8/5	2日早い

注) DVR(発育速度)モデルによる発育予測。平年は1986年~2015年の平均。

(2) な し

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「幸水」は縦径が28.0mmで平年比107%、横径が33.0mmで平年比110%と平年より大きく、「豊水」も縦径が29.7mmで平年比107%、横径が32.1mmで平年比111%と平年より大きい状況です。また、満開後日数による比較でも、「幸水」、「豊水」とともに平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

「幸水」では満開後50日(6月15日)の予備枝新梢長は平年に比較して105%と平年よりやや長く、不定芽新梢長は117%と長くなっています。予備枝新梢の葉数は平年に比較して99%と平年並です。

「豊水」では満開後50日(6月13日)の予備枝新梢長は平年に比較して116%と平年より長く、不定芽新梢長は119%と長くなっています。予備枝新梢の葉数は平年に比較して109%と平年より多くなっています。

ウ 生育予測

6月15日現在のDVRモデルによる「幸水」の裂果期予測は、7月12日頃で平年より2

日早い見込みです。

また、DVRモデルによる「幸水」の収穫盛期予測は、8月31日頃で平年並の見込みです。

(3) りんご

ア 果実肥大

暦日で比較すると、「つがる」は縦径が41.2mmで平年比107%、横径が45.6mmで平年比111%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が35.5mmで平年比99%、横径が36.9mmで平年比104%と平年並です。また、満開後日数による比較では、「つがる」は平年より大きく、「ふじ」は平年並の肥大状況です。

イ 新梢生長

満開後40日（6月10日）の新梢長は平年と比較して、「つがる」が126%、「ふじ」が125%とともに長くなっています。満開後40日の新梢停止率は、「つがる」が53.3%で昨年より低く、「ふじ」が93.3%で昨年と同程度となっています。

(4) ぶどう

「巨峰（有核）」の開花始は6月1日、満開は6月6日で、いずれも平年より4～5日早まりました。「巨峰（無核）」の開花始は6月2日、満開は6月7日で、いずれも平年より1～2日早まりました。「あづましずく（長梢）」の開花始は5月30日、満開は6月5日で、平年より3～5日早まりました。

発芽後60日（6月7日）における「巨峰（有核）」の新梢長は96.3cm（平年比140%）と平年より長く、展葉数は13.5枚（平年比102%）と平年並の状況です。

表2 ぶどうの開花状況

品 種	開 花 始 期			開 花 盛 期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰（有核）	6/1	6/6	5/28	6/6	6/10	5/31
巨峰（無核）	6/2	6/4	5/29	6/7	6/8	6/2
あづましずく（長梢）	5/30	6/4	5/27	6/5	6/8	5/31

注）平年は、巨峰（有核）が1988年～2015年、巨峰（無核）が1998年～2016年、あづましずくが、2004年～2016年の平均。

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

3 栽培上の留意点

(1) 共 通

現在、土壌水分は適湿状態にあります。今後、降水量が少なく土壌の乾燥が進む場合は、以下の対策を実施しましょう。

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょ（草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合には、草刈りしない場合の約半分となる）ことが確認されている）。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) も も

ア 修正摘果

果樹研究所における硬核期終了は6月24日頃と予測されます。硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら修正摘果を実施しましょう。

修正摘果は、果実肥大や果形に注意して実施します。特に、果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮が変色している果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの果実に注意して摘果しましょう。また、修正摘果前には、各園地ごとに核障害の発生状況を確認し、核障害の発生が多い場合は修正摘果を2～3回に分けて実施し商品果率の向上に努めましょう。

イ 着色管理と極早生品種の収穫

枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シートの設置等の収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に実施しましょう。なお、果樹研究所における極早生品種「はつおとめ」等の成熟状況は、満開後からの成熟日数で平年よりもやや早い状況となっています。

ウ 核障害多発時の注意事項

核障害のある果実は胚に障害が見られることが多く、硬核期以降に胚が障害を受けた場合、多雨条件下では生理落果が発生しやすくなります。また、胚に障害を持つ果実は早熟することが多いので、収穫が遅れないように注意しましょう。

(3) な し

ア 着果管理

仕上げ摘果は、予備摘果終了後速やかに実施しましょう。その際、樹勢の低下や果実肥大の鈍化が観察される場合は新梢停止期前（満開後60～70日、6月下旬～7月始め頃）に着果数の10～15%程度を目安に摘果し、着果数を調整しましょう。現地では小玉傾向や果形の乱れが見られる園地もあるので、なるべく果形、肥大の良い果実を残し適正着果量に調整しましょう。

イ 新梢管理

「幸水」で副芽枝新梢の飛びだしが多い場合はこれを摘心しましょう。摘心は側枝基部20～40cm程度を目安とし、この時、ロゼット状の基部葉とその上位2～3節残して摘心を行うと果実肥大と花芽形成に効果が期待できます。

「豊水」では、満開後60日頃（果樹研究所では6月23日頃）に新梢伸長が緩慢となる予備枝は、翌年の果実肥大と果形が良いので、直ちに誘引を開始しましょう。また、下垂したり枝越しとなった新梢は方向を修正するとともに、側枝先端部が倒れた場合には先端新梢を立てるように誘引し、受光態勢や薬剤の通りを良好にしましょう。

ウ 予備枝管理

「幸水」の予備枝誘引適期は、新梢停止期の約10日前の満開後65日頃です（新梢の生育状況は新梢長が90～100cm、展葉節数が23～26節）。

DVR予測による本年の裂果期予測（新梢停止期）は7月12日（満開後77日）です。したがって、6月下旬～7月初旬頃が誘引作業のピークとなるように誘引作業を始めましょう。

(4) りんご

ア 着果管理

仕上げ摘果は満開後60日までに実施しましょう（果樹研究所「ふじ」は6月30日）。摘果の程度は、「つがる」では3頂芽に1果（1果当たりの必要葉枚数45枚）、「さんさ」

「シナノスイート」「ジョナゴールド」「陽光」「王林」「ふじ」は4頂芽に1果（必要葉枚数60枚）を目安とします。果形や肥大状況等をよく観察しながら丁寧に実施しましょう。小玉果、変形果、サビ果、傷果、病害虫果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残しましょう。仕上げ摘果の遅れは翌年の花芽分化率低下の原因となるので、6月下旬までに適正着果量にしましょう。

「さんさ」は、隔年結果性が強いので、他の品種に先駆けて摘果を実施しましょう。ま

た、「つがる」は、大玉果にすると日持ちが悪くなるので、中玉生産を目標に摘果を実施しましょう。「ジョナゴールド」は着果数が多いと着色不良や隔年結果が問題となるので適正着果を心がけましょう。「陽光」はサビの発生状況をよく確認して摘果しましょう。「王林」は樹勢が落ち着くと花芽着生が多く着果数が多くなりやすいので仕上げ摘果を徹底しましょう。

イ 新梢管理

主枝や垂主枝（骨格枝）の基部付近の背面から発生した徒長枝をせん除し、日当たりを確保するとともに薬剤の通りを良好にしましょう。

(4) ぶどう

ア 摘房・摘粒

着果過多は着色不良を招くため摘房を実施しましょう。早めの摘房は養分の浪費を防ぎ、果実品質向上の効果があります。また、摘粒や袋かけ等の作業労力の軽減にもつながります。有核栽培では結実確認次第（満開約2週間後頃）、1新梢1果房を目安に、単為結果が多い果房、花振るいが著しい果房、果粒肥大の揃いが悪い果房を中心に摘房を実施しましょう。無核栽培では2回目のジベレリン処理前までに最終着房数の1～2割増し程度まで摘房し、袋かけ前に最終着房数とします。収量を確保するため果房数を多く残しがちであるが、品質の良い果実を生産するため、適正な着房数管理を心がけましょう。

摘粒は、実止まりが確認され、有核果と無核果の区別ができるようになった頃から開始しましょう。無核栽培では、軸長が長すぎる場合、1回目のジベレリン処理と2回目のジベレリン処理の間に、上部支梗の切り下げを行い軸長を調整しましょう。その際、ショットベリーや内向き果、外側に飛び出した果粒を除去しておくこと、その後の摘粒作業を効率よく行うことができます。摘粒作業は、時期が遅れると果粒同士が密着し、作業性が低下するとともにハサミによる傷果の発生も多くなるため、果粒肥大の早い品種から計画的に作業を進めるようにします。また摘粒の際は、果房には触れず穂軸を持って作業し、果梗は基部から切り落とすよう心がけましょう。

イ 新梢管理

実止まりが確認され次第、特に強勢な新梢や混み合っている部分の新梢を整理し、棚面の明るさを確保しましょう。また、強勢な新梢、副梢については摘心を行い、果房への養分転流を促します。

4 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご輪紋病、褐斑病

梅雨期は輪紋病の重点防除期です。薬剤はいずれの病害にも効果が高い防除剤を6月下旬に十分量散布しましょう。褐斑病については、6月12日現在、果樹研究所の「ふじ」殺菌剤無散布樹において発生が確認されていませんが、発生が認められる場合は今後二次感染を繰り返すおそれがあるため、防除を徹底しましょう。

イ りんご腐らん病

今後梅雨期に入ると感染拡大のおそれがあるため、園地での発生状況をよく観察し、発病部位は徹底して取り除きましょう。摘果後に果柄が残っている場合、そこから病原菌が侵入するため、仕上げ摘果の際は、離層形成部位の直上で摘果するよう心がけましょう。

ウ ももせん孔細菌病

梅雨期に入り降水量が多くなると、二次感染により発病が増加するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。早生種では収穫前日数に十分注意し、6月中旬以降10日間隔で防除薬剤を散布しましょう。また、罹病部位は見つけ次第取り除き、耕種的防除を徹底しましょう。

エ ももホモプシス腐敗病、灰星病

梅雨期はホモプシス腐敗病の重点防除時期にあたるので、6月下旬に本病に防除効果の高い薬剤を散布するとともに、伝染源となる芽枯れや枝枯れが認められる場合はせん除して適切に処分しましょう。また、灰星病は果実の成熟とともに感染しやすくなるため、6月下旬以降、灰星病防除剤を十分量散布し防除の徹底を図りましょう。

オ なし黒星病、輪紋病

梅雨期に降水量が多くなると、黒星病は二次感染により発病が増加するおそれがあるため、罹病部位は見つけ次第取り除き、耕種的防除を徹底しましょう。また、輪紋病も梅雨期が重点防除期になるため、6月下旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布しましょう。なお、輪紋病の多発が予想される場合は、梅雨明けまで7日間隔で散布を行いましょう。

カ ぶどう晩腐病

梅雨期は本病の重点防除期のため、降雨前の散布を徹底しましょう。耕種的対策としては幼果期の薬剤散布後にカサ掛けを丁寧に行いましょう。なお、果面の汚れを防ぐため、袋かけが終わるまで展着剤は加用しません。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

果樹研究所内におけるモモハモグリガ第1世代成虫の発生盛期は6月1日でした。本種の第3世代防除適期は7月1半旬～7月2半旬頃と推定されるため、この時期に合わせて防除を行いましょう。本種の発生は放任園や無防除ハナモモ等の栽培園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイの第2世代防除適期は6月6半旬～7月1半旬頃と推定されます。本種の第1世代は主にもも等の核果類の新梢に寄生し、後半の世代ではなし果実への寄生が増加します。例年、なしの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除を徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

果樹研究所内のフェロモントラップにおける初誘殺日は5月25日でした。被害が発生しているもも園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、6月2半旬頃から10日間隔で2～3回防除を行いましょう。被害果実は見つけ次第摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましょう。また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急に実施しましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成29年6月15日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第2世代 成虫盛期	第3世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	6月28日	7月2日	6月19日	6月27日
平年並	6月30日	7月5日	6月20日	6月30日
2℃低い	7月3日	7月9日	6月22日	7月4日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：6月1日、ナシヒメシンクイ：4月30日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>